

起こりうる危機を想定する

過去に起きたこと

●想定外を無くする事

一時期、「このことは想定外でした」という言葉が流行りました。私は、セミナーの中で、起きてしまったクレーム、トラブルは、誰でも対応が出来る。過去に経験したクレーム、トラブルを考え、対応することは、部長までなれる方なら対応出来る。組織のリーダー、責任者になる方は、自分自身が経験したことが無い事も、考え、想定外という言葉は発しない資質の方がなれる、とお話ししています。

組織のリーダーは、常に組織の30年後の絵を考え、必要な人材を含んだ投資を行い、起こりうる、トラブルを24時間365日考え続ける必要があります。

責任者は、危機管理を担当する部署を明確にし、定期的に、トラブルに対してのシュミレーションの計画を行う事が必要です。

2020年に発生した新型コロナウイルス対策で、マスクが不足した、殺菌剤が不足したと言う工場は、危機管理を行っていなかった事になります。

●危機管理の担当者を明確にする

10人程度の工場であれば、工場長がすべて想定して行う事になると思いますが、50人以上の工場では、安全管理者の設置が必要になりますので、安全管理者などの危機管理の担当者を明確にし、日常的に、危機管理の各項目について「気づき」を検討させることが大切です。

安全衛生委員会の席などで、各項目の一つの事例について、検討し、常に対策を磨き続ける事が更に大切です。担当者だけの性にとすること無く、出席者全員が、自分の工場と思って、あらゆる項目を検討することが大切です。たった一人の「気づき」が危機を救うことがあるのです。

危機管理の項目は、常に洗い出しが必要です。一番の危機管理は、オーナー工場であれば、オーナーの病気、怪我、死亡などを常に想定し、対応策を検討しておくことが必要です。

ダチョウの首は何故長いか考えてみてください。ダチョウは、迫ってくる危機をいち早く見つけ、逃げ出すために、首は長いのです。迫り来る危機を見ないように、頭を砂の中に入れても、おこることは起こってしまうのです。

[食品工場の危機管理の基本](#) [危機管理センターについて](#) の [目次に戻る](#)

こんな事が聞きたい方は [連絡先](#) から お願いします。

<http://ja8mrx.o.oo7.jp/koujyou1.htm>

